



## 取扱説明書



# キャンピングカー レンタル東京城南島

# 目次

- 《1》 カギについて
- 《2》 サブバッテリーについて
- 《3》 バッテリー残量計について
- 《4》 集中スイッチについて
- 《5》 ルーフベントについて
- 《6》 外部100Vについて
- 《7》 シンクについて
- 《8》 冷蔵庫について
- 《9》 冬季FFヒーターについて
- 《10》 TV・DVDについて
- 《11》 ベットセットについて
- 《12》 シューズボックス裏装置について
- 《13》 車内備品について

# 《1》 カギについて

お渡しするカギは5本あります



## ①メインキー

白：エンジン・運転席のドア・助手席のドア

青：燃料タンクカバー ※燃料タンクの蓋の鍵は白の鍵です

## ②エントランスキー

赤：サイドドア（エントランス）

金：サイドドア（エントランス）

緑：リア収納ドア（左右同じ）

青：燃料タンクカバー



赤：サイドドア（エントランス）



緑：リア収納ドア（左右同じ） 上下2つ

鍵を縦：LOCK

鍵を横：OPEN



## 《2》サブバッテリーについて

サブバッテリーは下駄箱内（下段の下蓋を開けたところ）に設置されています



## 《3》バッテリー残量計について

バッテリー残量計はスイッチを押すことによりサブバッテリーの残量を確認することができます（あくまでも目安となります）

突然サブバッテリーが無くなり室内の電気機器が使用できなくなるという不安を解消してくれます。走行することで充電がされます



【バッテリー残量計の目安】  
30%以下になりましたら  
充電が必要です

## 《4》 集中スイッチについて

電装品の操作は集中スイッチにて操作することにより利用できます  
集中スイッチの位置はサイドドアエントランス上部にあります。

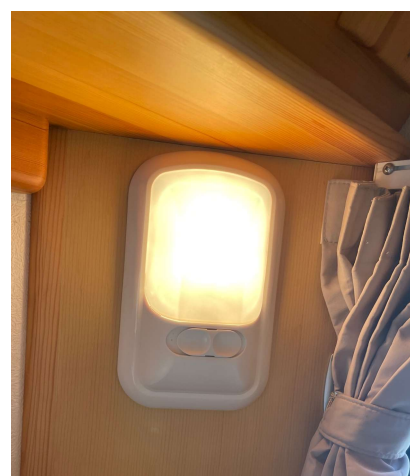
<左スイッチ>



①サイドドア  
エントランス上部

②リア荷物室

③リアベット上下



※④冷蔵庫・⑤水道は別ページにて説明

## <右スイッチ>



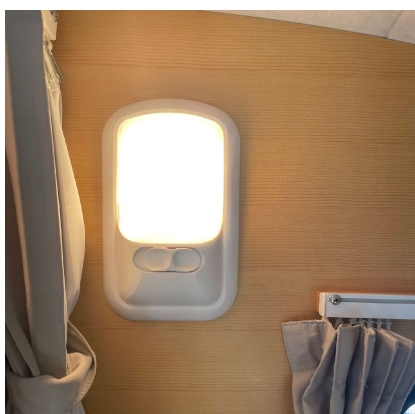
⑥メイン室内灯



⑦上部収納庫下



⑧バンクベット灯



※⑨ルーフベント・⑩電源1は別ページにて説明

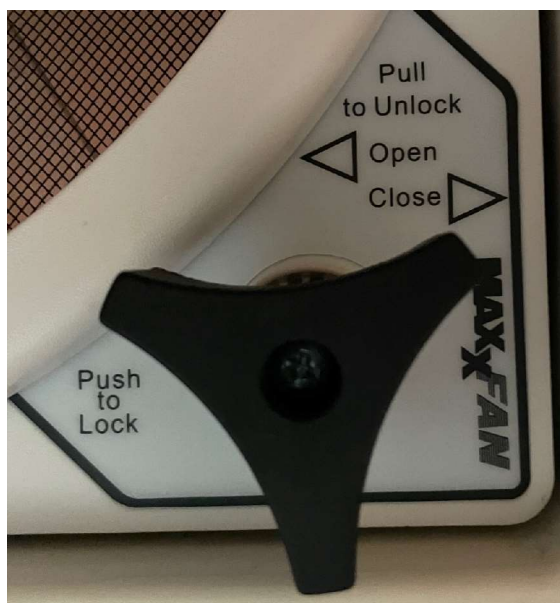
## 《5》 ルーフベント (MAXファンについて)

集中スイッチ⑨の「ルーフベント」をON

ファンの蓋はつまみを回すことで開閉します。

<使用方法>

- ①+と-のボタンで風力の調整ができます
- ②IN/OUTモードの選択ができます
- ③AUTOのボタンを一度押すことで78°F (25.6°C) にセットされます。温度を下げたい時には「-」のボタンを押すことでファンの回転数が増し、設定温度までファンが回転し続けます。その後設定温度になったら停止します。温度を上げたいときは「+」のボタンで同様に設定できます。



※ファンが回転中でも外蓋を閉めることにより自動的にファンは停止します。吸排気の切替はファンの停止を確認後行ってください。ヒューズ切れの原因になります



## 《6》外部100Vについて

100V入力用ケーブルを接続することにより  
室内流し台下に設置されている100Vコンセントが  
使用できるようになります  
外部入力ケーブルの接続はキャップを外して差し込みます。  
(ケーブルは流し台左下の引き出しに入っています)



## 《7》シンクについて

集中スイッチのスイッチ⑤をONにします  
出発時には給水タンク、排水タンクは共に空の状態です  
ご使用になれる際は右側の給水タンクに水を入れてください。

蛇口をひねる事により、ポンプが作動し水が流れます  
シャワーヘッドを車外に固定し放水可能ですので外シャワーとしても使用が可能となります。**※飲み水には使用できません**  
シンクに熱湯・洗剤・石けん・油もの・汚水・調理汁等を流さないでください  
**※ご返却前には必ず両タンクの水を処分してください**



※リア収納ドアから取り外しもできます



## 《8》 冷蔵庫について

集中スイッチ④をONにすることで使用が可能となります

1WAYの12Vタイプとなります

サブバッテリーから電源を供給します

※ダイヤルメモリが最大の状態での使用は

サブバッテリー上がりの原因となります。

また生鮮食品（魚や肉）や臭いのある物の保管はご遠慮ください

※ダイヤルメモリを弱（1~2）状態で使用していただくと連続運転も可能になります。

※保冷剤との併用で冷蔵庫内の温度を保つことができます



## 《9》FFヒーターについて

FFヒーターは外気との温度差によって点火消化を繰り返します。したがって外気と室内温度の設定が大きい場合連続送風となります。燃料調節の為に外気との温度差は少なくなるように設定することをお勧めします。

また走行中は燃料の温度上昇による再点火機能の停止が発生する恐れがありますのでFFヒーターのご使用はご遠慮ください

※外気温度が3.5℃以上では本体のセンサーが働き温風動作はしません

集中スイッチとは連動していませんので本体のつまみを回すと点火します。温度調節も同じつまみにて行います



# 《10》TV・DVDについて

使用方法は別紙にて記載しています



DVDプレーヤー  
お子さま向けのDVDプレーヤー（12V）を  
4枚ご用意しております



# 《11》 ベッドセットについて

弊社のキャンピングカーの基本就寝定員は

バンクベット2名

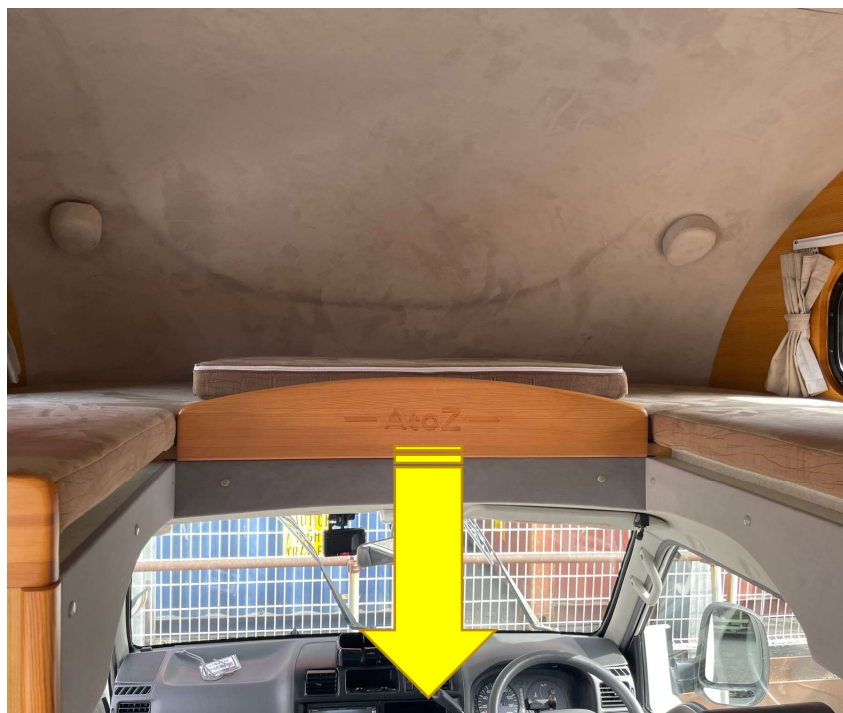
ダイネット部2名

二段ベット各1名の計6名です

※走行中は危険ですのでベットに乗車することはお控えください。

## ■バンクベット使用方法■

### ①手前に引き出す



### ②マットをセットして完成



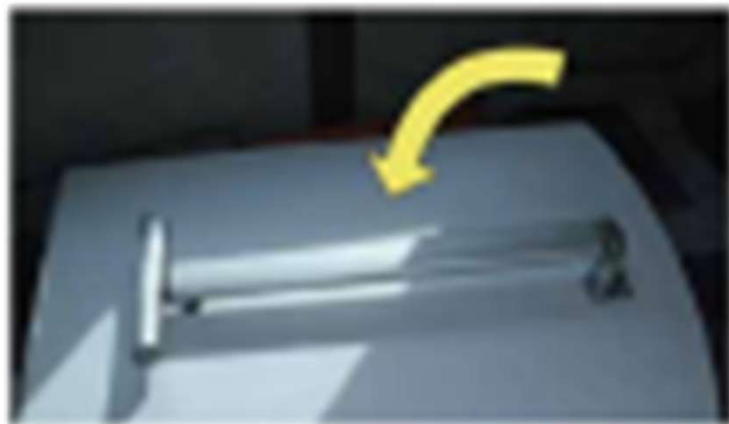
## ■セカンドシート使用方法■

### ①テーブルを取り外す

斜め45度に持ち上げると外れます

### ②足を折りたたむ

付け根のボタンを押すことで足を折りたたむことができます  
テーブル足は完全に折りたたむことでロックされます。  
また戻す時も付け根のボタンを押すことで足が開きます。



### ③テーブルを床に収納する



### ④すべてのヘッドレストを取る



## ⑤ 3列目（座面）をレバーを引きながら起こします

レバーを動かすことで段階調整が可能となります  
この段階でシートベルトをシート下に収納してください

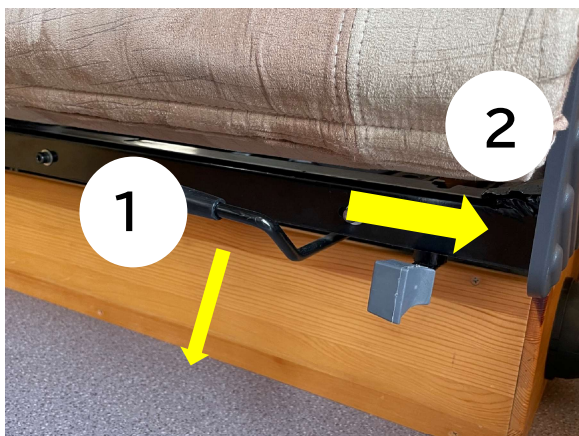


## ⑥ 4列目（背面）を手間に倒します





⑦左右スライドレバーを使いシートを横にスライドさせます



シートの位置は下のレバーで操作できます  
写真左レバーはシートが前後にスライドし右のレバーは左右にスライドします

⑧3列目を手前に倒してフラットにします

①のレバーを使いシートの奥の隙間をなくします



シートの隙間に手を入れるとスムーズにフラットにすることができます

⑨ 1・2列目も3・4列目同様フラットにする



⑩奥の隙間にクッションシートを埋め込みます

これで就寝スペースの完成です！！

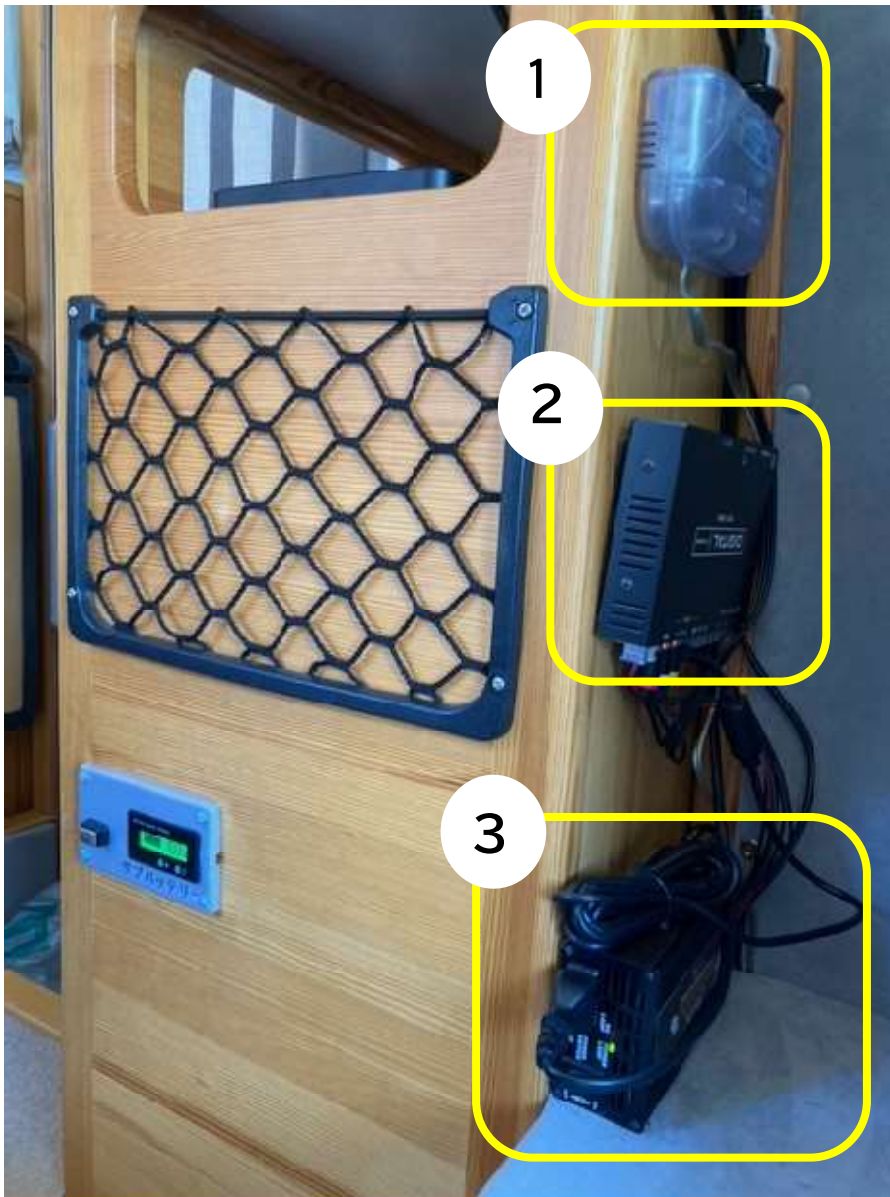


AtoZのベット展開動画を  
参考にしてみてください。



⚠警告 走行する時は急発進や急ブレーキなど万一の時に危険なため  
フラット状態にしないでください

## 《12》 シューズBOX裏装置について



① 12Vのシガーソケット

集中スイッチボタン⑩「車内12V電源」をONにすることで使用可能

② TVチューナー

アンテナからTVモニターに映し出すための機械です

③ インバーター

12Vを100Vに変換します

こちらがOFFになっているとTVは使用できませんのでONにしてください

※すべてサブバッテリーにより稼働します

# 《13》 車内備品について

## 車内消毒・掃除用品



## 扇風機



## 緊急セット



## チェーン



## クリーニング済シート



## 収納ポケット



工具一式・ジャッキは  
3列目シート下に収納されています

## 《14》 運転席回りについて

ETCとナビ完備



真ん中のシートを起こすことで3人掛けとなります



操作でご不明な点等ございましたら裏面までお問合せください  
営業時間外のお問い合わせは、  
お時間をいただく場合がございますのでご了承ください

## 安全で楽しいキャンピングカーライフを送るために

キャンピングカーはボディーサイズが乗用車やワゴン車と異なり、ひと回り大きいサイズとなります。

また、居住に関わる重量のある設備を数多く取り付けていますので運転には十分にお気をつけください。

### <出発前>

#### ■ 積載物の確認及び重量バランスの確認(走行安定性を確保する)

トランク等に積んだ積載物の重量が偏ると車両姿勢が不安定になり、安全運転の妨げになります。動かないようバランス 良く積みましょう。

#### ■ 車両に装着してある設備の点検(走行時の脱落を防止する)

サイクルキャリア、その他設備等が何らかの理由などで緩んだり、外れたりしていないかを確認します。

#### ■ エントランスドア・バケツジドアの施錠確認(うっかり事故の防止)

各場所にはキーシリンダーが着いています。止め忘れると走行時に開いて事故の原因となります

#### ■ サブバッテリーの電圧の確認

サブバッテリーの電圧がエンジン始動前で 11V 以下になっている場合はエンジンをかけて事前に充電をしてから使用してください。

特に 10V 以下の場合は充電を行いましょう。

- 荷物の積み残しの確認

積み残しや外部ケーブルなどがつながっていないか確認しましょう

<エンジン始動時>

- メーター上の警告の確認

車体の不具合がないかどうか確認します。

- エンジンの異音の確認

エンジンの不具合がないかどうかを確認します。

- サブバッテリーの電圧の確認

エンジン始動時に電圧が上がっているかどうかを確認します

- 燃料の残量の確認

十分な燃料が入っているかを確認します。

<走行時>

- 強風時の走行について

キャンピングカーは車高が高いため、横風などにあおられる場合があります。道路などに設置している吹流しや煙突の煙、立ち木の揺れ方など、自然の動きをよく見ながら安全運転を心がけましょう。

トンネルの出口や暴風壁の切れ目などで風によりハンドルを取られる場合がありますので、十分注意して走行してください。

もし車体がバランスを崩したときは、フットブレーキをかけずに、エンジンブレーキや惰性で徐々に減速していきましょう。

#### ■ 車体のサイズと見切りについて

走行時、車両の上部、左右、後部をよく見ながら運転をしましょう。

特に高さ制限のある場所、見通しのわるい交差点、細い道路などでの軒先や標識の引っ張り、立ち木の枝などで車両を損傷する場合があります。

良かれと思って道を譲ったときに、路肩の枝で車を壊すこともあります。

#### ■ 車体の下へのもぐりこみの注意

小さいお子様のいるご家庭では、車両の床下へのもぐりこみに注意しましょう。何らかの理由で車両の下へもぐりこむことで重大な事故になる可能性があります。

#### ■ 砂地やぬかるみでの走行について

車両重量が重いので深みにはまる可能性があります。車重で脱出が難しくなる場合がありますので、そのような場所はできるだけ避けるようにしてください。

#### ■ 積雪路や凍結路での走行について

ゆとりある運転を心がけて、急ハンドル、急ブレーキ、急加速などを行わないようにしましょう。

特に凍結路の急な下りなどでは、タイヤがスリップして自重ですべり落下する可能性があります。事前に道を確認して十分スピードを落として走行してください。

ABS, ASRなどを過信しないようご注意ください。また、スタッドレスタイヤだけでなくチェーンも携帯して、万が一の場合に備えましょう。



エンジンブレーキ、排気ブレーキ、フットブレーキを状況に応じて使い分けて安全に運転をしましょう。

## <停車・駐車時について>

### ■ 停車・駐車時の確認

車両を停車、駐車する場合は必ずギアを P(パーキング)にしてパーキングブレーキをしっかりとかけてください。

また、斜面に停車、駐車する場合は車輪に輪留めをかけるようにしましょう。

パーキングブレーキが十分にかかっていないと車両が動いて大きな事故になる場合があります。

### ■ お車から離れるとき

停車、駐車などで車から離れる時は必ず施錠をしましょう。

キャンピングカーは生活道具や高価な部品がたくさんついており、車体だけではなく、物品類の盗難の可能性もあります。

また、普通車と異なり、車体が大きく狭い場所では威圧感があるため、周りの人に迷惑がかからない駐車を心がけるようにしましょう。

## <日常点検について>

### ■ タイヤの確認

タイヤはゴム製品なので、走行中の振動や路面から受ける熱などによって劣化します。

劣化が進むとバースト(破裂)を起こす可能性が出てきますが、特に夏は日照りによってアスファルトの温度が上がるため、タイヤの温度も上昇し、バーストの発生率が高くなります。

このようなバーストを防ぐためには、ご自分の車のタイヤの状態をこまめにチェックする習慣を身につけるようにしてください。

#### ✓ スリップサインについて

タイヤの使用限度は、一般的に残り溝(1.6mm 以上)やキズ・亀裂の有無から判断することができます。サイドウォールなどにヒビが入っているのを見つけたら「危険信号」だと意識してください。

また「スリップサイン」が出ているかどうかを必ずチェックしてください。これは、タイヤの限界が来たことを伝えるサインのことで、タイヤの溝底に設けられた 1.6mm のゴムの盛り上がり部分のことを指します。

スリップサインは、残り溝 1.6mm という法令(道路運送車輛の保安基準第9条)で定められた最低ラインを示す表示ですから、これが見えてきたら、そのタイヤの使用は控えてください。

できれば、これが見える前に新品タイヤと交換しましょう。

また、小形トラック用タイヤは、高速道路を走行する場合は 2.4mm 以上の残り溝が必要となります。

このようなタイヤを履いている車両は、その使用制限を守ってください。

#### ✓ 常に適正な空気を保つ

空気圧が適正でないと、溝やキズ・亀裂の有無とは関係なくバーストを起こす可能性が高まります。

ゴムは空気を通しますので、タイヤの空気圧は1ヶ月の間に約3~5%低下します。したがって、空気圧の点検は、最低1ヶ月に1度は行なってください。

車両の指定空気圧は、車両のドア付近に表示されています。不明の場合には、当社または販売店にご相談ください。

空気圧を調整するときは、指定空気圧を下回ることのないように、10%を上限として、少し高めに調整してください。

タイヤの空気圧は、走行前の冷えている時に、エアゲージにより点検し、ビルダーの指定空気圧に調整してください。

#### ✓ タイヤの変形

長期間同じ場所で保管しておくるとタイヤが重みで変形し形にクセが付く事があります。

そのまま高速道路など走られると最悪バーストする危険性が高まりますので、乗らなくても定期的に動かし接地部分を変えるようにしてください。

#### ✓ 荷物の積みすぎに注意

タイヤが劣化する度合いは、車を使われる方の運転の仕方や荷物の積み方で異なります。

まずは空気圧を適正に保ち、過積載を行なわないなど、日頃の心がけが必要です。

走行中に異常な振動を感じたら直ちに停車し、タイヤをチェックしてください。

#### ■ オイル・クーラント・ウォシャー液の確認

オイルの汚れ、クーラントやウォッシャー液の残量を確認します。



## キャンピングカー レンタル東京城南島

株式会社アライアンス・コーポレーション  
東京都大田区城南島4-8-2

TEL : 03-6412-9090

FAX : 03-5755-8082

MAIL : [info@campingcar-rtj.com](mailto:info@campingcar-rtj.com)

HP : <http://www.campingcar-rtj.com/>

